

「わがとこの磨けば光る地域の宝～わがとこを教え、わがとこの若者と守る～」

海士町中央公民館

## 1 海士町の概要

(1) 海士町は、日本海の島根半島沖合約60Kmに浮かぶ隠岐諸島の中の「中ノ島」にあり、1島1町の小さな島である。人口2,266人、世帯数1,162世帯(H30、2末)で保育園1、小学校2、中学校1、高校1校がある。また、集落が14あり、それぞれの地区に地区公民館がある。対馬暖流の影響を受けた豊かな海や、大山隠岐国立公園や隠岐ユネスコ世界ジオパークに指定されるなど、独自の生態系が存在し、豊かな自然に恵まれている。歴史的な背景としては、奈良時代、遠流の地に制定され、承久の乱(1221年)に敗れた後鳥羽天皇がご配流されて生涯を終えられた島で、貴重な文化遺産・史跡や伝承が数多く残っている。近年の海士町は、島の生き残りをかけ、産業のブランド化、高校の存続をかけての高校生の「島留学」受け入れのほか全国からの移住者も多数で、未来を切り開くための挑戦に取り組んでいる。

## 2 事業の趣旨

町内14地区へアンケートを行ったところ、地区住民の高齢化、人口減少による集落維持への不安、歴史伝統文化の継承の不安といった課題があがっていた。海士町は若者のIターンが多く、地域活性している印象をもたれている。しかし実際は地元住民とIターンが融合している地域は少なく、集落維持のためにはIターンが増えることが良いことと思いつつ、Iターンの行事への不参加などの悩みも抱えている。また、地元の若者も地域のことを知らず、地域行事への参加が少なくなっているという現状もある。今回の事業において地域資源

を介して歴史文化の継承、世代間交流、地域内交流を実施することで、住民同士のつながりを広げ、地域づくりの担い手育成を図る。

## 3 具体的な取組内容

海士には歴史、伝統文化、和歌、古文書など地域資源が豊富にある。そこで地域資源を活用して各種講座を開催した。

(ア) 各地区の歴史や文化を再認識してもらう「ふるさと再発見ツアー」を開催。地区の住民が講師となり案内し、座談会も開催。地元の方、Iターン、若者の地域融合を図り、わがとこの歴史文化を継承する場となった。



### 【ふるさと再発見ツアーのようす】

(イ) 海士は和歌に秀でた後鳥羽上皇ゆかりの島であることから和歌(短歌)作り人を増やすことを目的として「始めよう和歌講座」を開催。作った歌を参加者で鑑賞して積極的に講座に参加していただくことで自ら考え行動する人を増やし、仲間作りを行った。その後、参加者が短歌同好会を立ち上げ、短歌を作り、後鳥羽上皇の歌を伝える活動を始めている。



【始めよう和歌講座のようす】

(ウ) 海士に伝わる「古文書」を参加者で解説し、歴史書に載っていない身近な歴史を知ることによって、継承する人づくりにつなげようと古文書講座を開催。古文書を解説したあと、関係する場所でフィールドワークをし、古文書だけではわからなかったことを知る機会となった。



【古文書講座フィールドワーク】

(エ) 海士にはいい土があるということで窯を開いた陶芸家を講師に開催する「本気のやきもの制作」では、体験だけで終わらず、本気でものづくりに向き合う心を育てることをねらいとして開催。努力して、苦勞から達成感が生まれ、それが日常にも生き、地域と真剣に向き合う心にもつなげた。できた器で交流会もし、地元の方、Iターンの方々との交流がさらに深まった。

(オ) 以上のように講座を開催し、11月に開催している「産業文化祭」において、作品の展示などを参加者主体で行い、広く

住民へ周知し、更なる活動の波及を図った。



【本気のやきもの制作のようす】

#### 4 評価と成果

(ア) 海士にしかない地域資源の大切さを知ってもらい、わがところ意識が高まった。

(イ) 同好会を立ち上げる担い手の出現

(ウ) 色々な方に講師をお願いすることで、引き受けた方が地元の文化・伝統の価値をあらためて認識し、自信と誇りを持って運営に協力。

今回、講座をきっかけにあらためて後鳥羽上皇がおられたという歴史的な事実が郷土愛をはぐくむ重要なキーワードになること、海士にしかない地域資源の大切さを知ってそれを伝えたいと思う人が増えたことは、今後の展開に期待ができるものとなった。

#### 5 今後の課題と見通し

地元の若者の参加が少なく担い手作りがまだ道半ばとなっている。人づくりは大人になってからでも遅くはないが、その人が生きてきた中でどんな体験をしてきたかが重要になるのではないかと思う。地域資源を活用し中高生にももっと関わってもらい、人づくりをすすめていきたい。

(文責：海士町中央公民館 村尾由美子)